

動画配信最前線

YouTube「RSK イブニングニュース」 「今の時代を映像で未来に残す」ような 優れたドキュメンタリーを配信

編成業務局編成部
筒井規夫さん
部長



報道局報道部 部長
武田博志さん



エリアを越えて全国の人に 見てもらえるチャンスができた

——RSK山陽放送には公式のYouTubeチャンネルがありますが、なぜニュースに特化した「RSKイブニングニュース」チャンネルを作ったのでしょうか。

武田■筒井の部署からの提案でした。これはチャンスだと思いました。2018年ごろから「テレビが若者に見られていない」と認識して以来、どうリーチしていくべきかとずっと考えていた矢先でした。

筒井■スタートしたときはドキュメンタリー番組を配信しようとは思っていませんでした。ただあるとき、武田が作ったドキュメンタリーを上げたら、すごく反応が良かったんです。「YouTube上ではドキュメンタリー番組はこんなにニーズがあるのか」と正直驚きました。全国にはドキュメンタリーを求めている人が多いことがわかり、ネットの世界は放送とは違うと気づかされました。

——ギャラクシー賞を何度も受賞するなど、RSK山陽放送は伝統的に優れたドキュメンタリー番組を制作しています。

武田■30年近く前に、ゴールデンタイムの1時間ドキュメンタリー番組「RSK特集」を放送していました。そのころ番組を担当した記者が社長になり、「今の時代を映像で未来に残す」という方針のもと、現在は「RSK地域スペシャル メッセージ」という形で放送を続けています。水曜日の夜8時に、最初はほぼ毎週放送していましたが、現在は月1回となっています。ちなみに「RSK地域スペシャル メッ

セージ」は2012年の4月からスタートして、25年8月までに281本を放送しています。

——番組はそのままYouTubeにもアップしているのでしょうか。

武田■著作権の関係でBGMを差し替える必要があり、その作業が結構大変です。それでも昔自分が作った番組なども、合間を見つけてBGMを差し替える作業をしています。本当はどんどん上げていきたいと思っています。

——YouTubeに配信するのはどんな利点があるとお考えでしょうか。

武田■私たちが作ったドキュメンタリーは、この岡山、香川の放送エリアで1回放送して終わりという状況でしたが、エリアを越えて全国の人に見てもらえるチャンスが生まれるようになりました。しかも1回きりではなく、何度も見ってもらうことができます。

ポッドキャストも活用して 幅広いYouTubeの展開をしたい

——YouTubeで多く見てもらえる工夫はされているのでしょうか。

筒井■良い作品だから多く見てもらえるわけではありません。共感してもらうきっかけを作る必要があり、それはサムネイルの工夫であったり、タイトルの作り方だったりだと思っています。作品的には、やはり頑張っている人の映像は、一定の需要があると感じています。

——今後YouTubeで挑戦してみたいことがあれば教えてください。

武田■ふだんのニュース番組はバラエティ豊かなネタで溢れているという自負はあるのですが、YouTube向

けにもっと動画のジャンルを増やしていければ、もっと面白くなっています。私自身は鉄道マニアではないのですが、「鉄道ネタは当たる」と聞き、新型車両お披露目会などを撮影して配信したところ30万回再生を記録し、「これは凄い」といろいろ手を出していくうちに、気が付けば「撮り鉄」のようになっていました。ある意味YouTubeは「振り切れる」のが魅力だと思っています。そのような「好き」をRSK山陽放送の記者全員が取り組めば、もっとバラエティ豊かなYouTubeチャンネルになるのではと思っています。

筒井■YouTubeはポッドキャストもあるので、音声を活用した展開ができないかと思っています。RSK山陽放送にはラジオもあるので、それもうまく活用して、もっと幅広いYouTubeの展開ができればいいですね。

オススメコンテンツ



「鳥の命を見つめて〜豊島の看護師・うたさん〜」

超高齢社会の縮図とも言える離島での暮らし。高齢者の命を支えるのは、30代の女性看護師。彼女が語る「生き合い、死に合う島」とは。文化庁芸術祭賞ほか受賞。配信2年で437万回再生を記録(2025年9月)。



from
YouTube

貴重なドキュメンタリーをより多くの方々へ届ける場として YouTubeを活用いただけてありがたいです。また、ポッドキャストは、ラジオとテレビの兼営局のメリットを生かし、映像付きの「ビデオポッドキャスト」にすることで、より広いリーチを実現できる可能性があるとお勧めです。